

2023年4月24日

— 明治安田生命 「家計」に関するアンケート調査を実施 —  
**9割以上が「昨年以上に物価高の影響を実感」！**  
**「年収の壁」が働く意欲の壁に！？働きたいのに働けない人が約6割！**  
**本格的な“脱巢ごもりGW”！GW予算は昨年比約1万円アップ！**

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 永島 英器）は、「家計」に関するアンケート調査を実施しましたのでご報告します。

1. 支出について（詳細は5～8ページ参照）

**■9割以上が昨年以上に物価高の影響を実感！対策は「電気をこまめに消す」！**

- ・物価高の影響を昨年以上に感じると回答した人は9割以上（93.9%）！物価上昇の波が多くの家計に押し寄せている！
- ・最も影響を感じる費用は「食費」（50.5%）、「光熱費・水道代」（41.4%）と、日々の生活に大きくかかわる項目が大半を占める結果に！
- ・物価高への対抗策のトップは「電気をこまめに消す」（52.5%）、次いで「エアコンの設定温度を調整する」（39.5%）！一方で、「食卓の品数を減らすようにしている」は15.1%に留まる結果に。小さな節電努力で物価高に対抗するも、日々の食費は削りにくい？

**■約4割が支出増！特に負担が増加した項目は「食費」「光熱費・水道代」！**

- ・昨年と比べて支出が増えた世帯は約4割（37.5%）！ひと月あたりの増加額は、「食費」が19,661円、「光熱費・水道代」が15,702円！

明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一が「支出」について分析！

2. 収入について（詳細は9～11ページ参照）

**■昨年より多くの世帯が収入増！賃上げ機運の高まりに期待！**

- ・昨年と比べて収入が増えた世帯は17.8%で、昨年（14.0%）から増加！賃上げの気運の高まりもあり、今後も増加傾向が続く？

**■約6割のパート・アルバイトが「年収の壁」で働きたいのに働けない！**

- ・パート・アルバイト（自身もしくは配偶者）の人のうち、「今よりもっと働きたい（または配偶者に働いてほしい）」人は約7割（70.7%）！物価高の影響などにより、働いて収入を増やしたいという意欲が上昇！？
- ・一方、今よりもっと働きたい人のうち、「年収の壁」を理由に働けない人は約6割（58.4%）！「年収の壁」が働く意欲の壁に！

明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一が「収入」について分析！

【ご照会先】  
 広報部 広報グループ TEL 03-3283-8054

### 3. 貯蓄とおこづかいについて（詳細は12～15ページ参照）

#### ■貯蓄額は2年連続増加！貯蓄目的のトップは「老後のため」！

- ・世帯の貯蓄額は平均1,478万円で2年連続増加！
- ・貯蓄目的のトップは「老後のため」（62.8%）、次いで「いざという時のため」（56.6%）と、先行きへの不安が垣間見える結果に！
- ・貯蓄方法の割合は、「銀行預金」が最も多く（74.3%）、「投資」は約2割（19.2%）に留まるなど、投資へのハードルは依然高い！？

#### ■約8割が老後に不安あり！

- ・老後の生活に経済的な不安を感じると回答した人は約8割（81.6%）！特に、30代以上の女性の約9割が不安を感じている！
- ・不安を感じる理由のトップは「十分な金融資産がないから」（61.7%）、次いで「物価高が続くと思うから」（53.9%）と、物価高が老後の不安にも影響か？

#### ■夫のおこづかい2年連続増加！コロナ禍前には届かないものの大幅アップ！

- ・夫のおこづかいは35,552円と昨年から2,117円アップし、2年連続増加！しかし、コロナ禍前（37,774円）には届かず、夫の我慢の日々は続く？

明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一が「貯蓄とおこづかい」について分析！

### 4. GWについて（詳細は16～18ページ参照）

#### ■本格的な“脱巣ごもりGW”！GW予算は昨年から約1万円アップ！

- ・今年のGWの過ごし方は、「自宅で過ごす」（41.6%）がトップであるものの、昨年と比較して減少し（ $\Delta 14.4$  p t）、外出が活発化する傾向に！
- ・また、「国内旅行」が13.7%と、コロナ禍において初めて緊急事態宣言が発出された2020年（3.7%）と比較して約4倍に！
- ・GWの予算は、39,294円と昨年から約1万円（9,750円）アップし、2年連続増加！
- ・一方、「目的地を近場に変更する」（24.7%）や「宿泊先のグレードを下げる」（18.1%）などの予定変更や、「予算を上げざるを得ない」（13.9%）など、GWにも物価高の影響が！外出が活発化するも、ちょっぴり我慢を強いられる？

明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一が「GW」について分析！

### 5. キャッシュレス決済について（詳細は19～21ページ参照）

#### ■約9割がキャッシュレス決済を利用！マイナポイントも後押しに？

- ・クレジットカードやスマホ決済等のキャッシュレス決済を利用する人は約9割（92.3%）！ポイントが付くお得感や利便性が利用を後押し！
- ・マイナポイントをきっかけに新たに利用を開始した決済手段は、「スマホ決済」が約2割（20.2%）でトップ！マイナポイントもキャッシュレス化を後押しか？

明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一が「キャッシュレス決済」について分析！

## 対象者の属性

### 1. 調査対象

20～79歳の既婚男女

### 2. 調査エリア

全国

### 3. 調査期間

2023年3月22日(水)～3月28日(火)

### 4. 調査方法

インターネット調査

### 5. 有効回答者数

1,620人

### 6. 回答者の内訳

(単位：人)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	135	135	135	135	135	135	810
女性	135	135	135	135	135	135	810
計	270	270	270	270	270	270	1,620

## 【 目 次 】

<u>1. 支出について</u>	…	5～8ページ
<u>2. 収入について</u>	…	9～11ページ
<u>3. 貯蓄とおこづかいについて</u>	…	12～15ページ
(1) 貯蓄について	…	12～14ページ
(2) おこづかいについて	…	15ページ
<u>4. GWIについて</u>	…	16～18ページ
<u>5. キャッシュレス決済について</u>	…	19～21ページ

## 1. 支出について

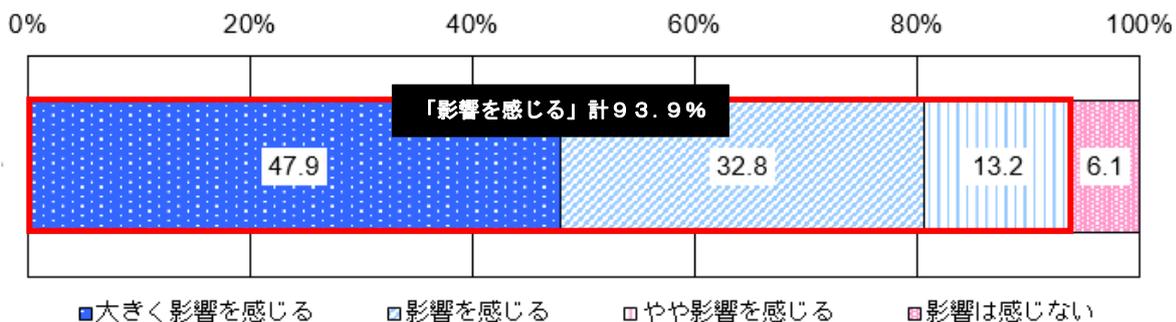
**9割以上が昨年以上に物価高の影響を実感！対策は「電気をこまめに消す」！**

○物価高による家計への影響について、昨年以上に感じるか聞いたところ、「大きく影響を感じる」と回答した人が47.9%、「影響を感じる」と回答した人が32.8%、「やや影響を感じる」と回答した人が13.2%と、合わせて9割以上（93.9%）という結果となりました。多くの家計に、昨年以上の物価高の波が押し寄せているようです。

○昨年以上に物価高の影響を感じている人に最も影響を感じている費用を聞いたところ、トップは「食費」（50.5%）、次いで「光熱費・水道代」（41.4%）となり、回答の大宗を占める結果となりました。日々の生活に大きくかかわる項目で、特に影響を実感しているようです。

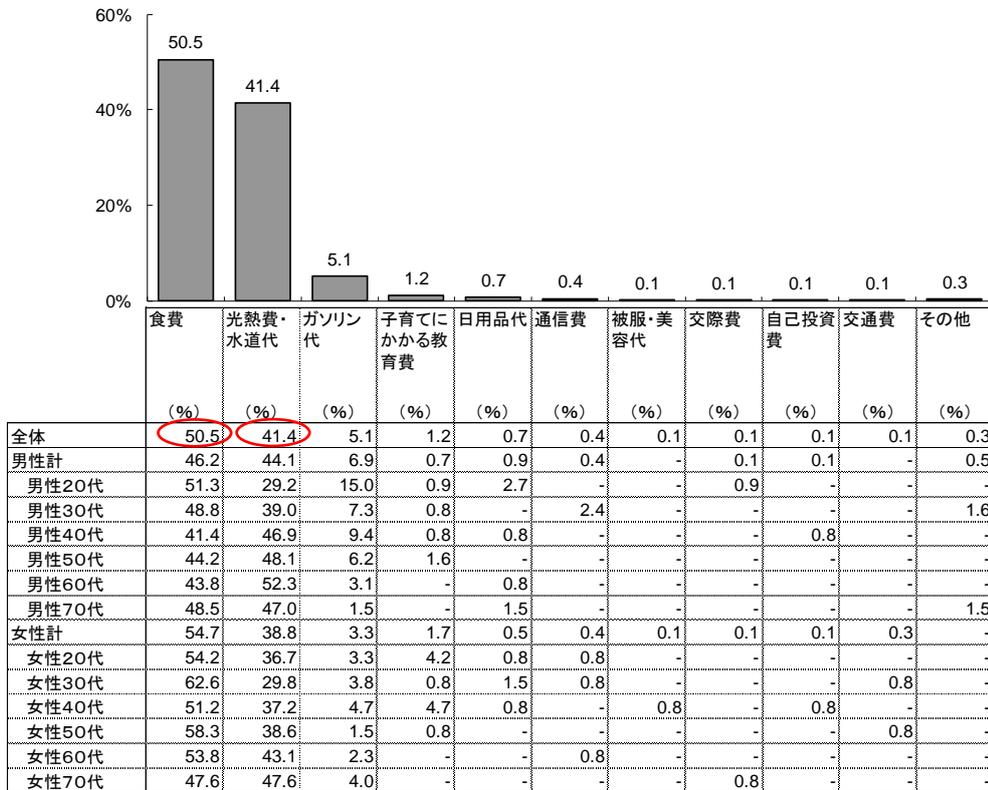
○物価高への対策として意識していることを聞いたところ、トップが「電気をこまめに消す」（52.5%）、次いで「エアコンの設定温度を調整する」（39.5%）と、多くが節電を通じた対策を実践している一方で、「食卓の品数を減らす」は15.1%にとどまりました。物価高騰が続くなか、取り組みやすい小さな節電努力で物価高に対抗するも、食費は削りにくい・削りたくないと考えているのかもしれませんが。

### Q. 昨年以上に物価高の影響を感じていますか

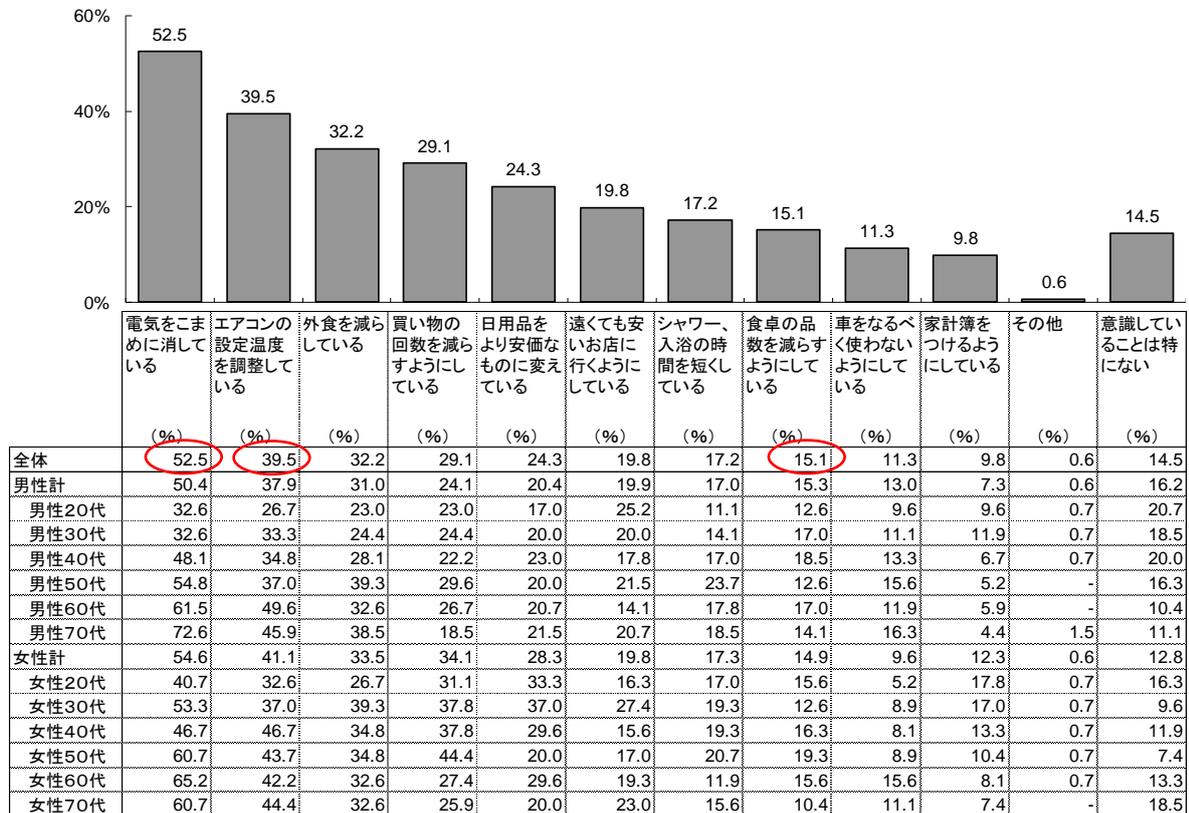


Q. 昨年以上に物価高の影響を最も感じる費用は何ですか

(「昨年以上に物価高の影響を感じる」人のみ回答)



Q. 物価高への対策として意識していることを教えてください (複数回答)



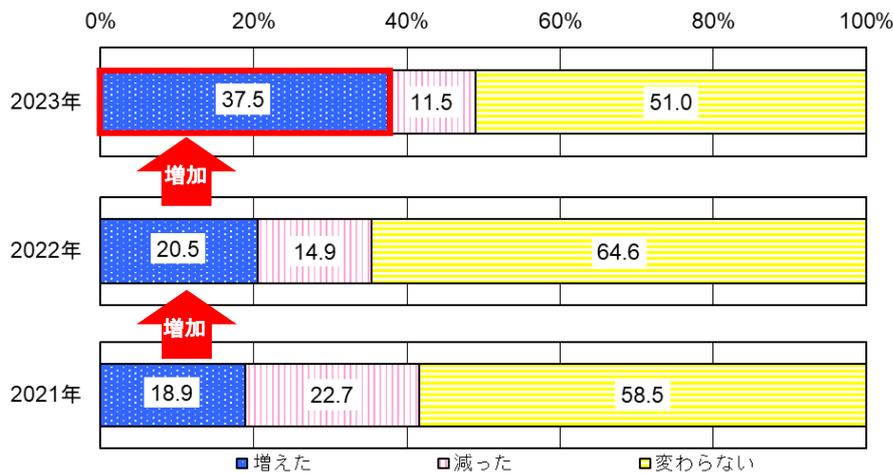
**約4割が支出増！特に負担が増加した項目は「食費」「光熱費・水道代」！**

○昨年同時期と比較した支出の増減を聞いたところ、約4割（37.5%）の世帯が「増えた」と回答しました。支出が増えた世帯は、2022年で20.5%、2021年で18.9%となっており、世帯の支出は年々増加していることがわかります。

○支出が増えた世帯に、ひと月あたりの項目別増加額を聞くと、全世帯に関係する項目では「食費」が19,661円、「光熱費・水道代」が15,702円という結果となりました。

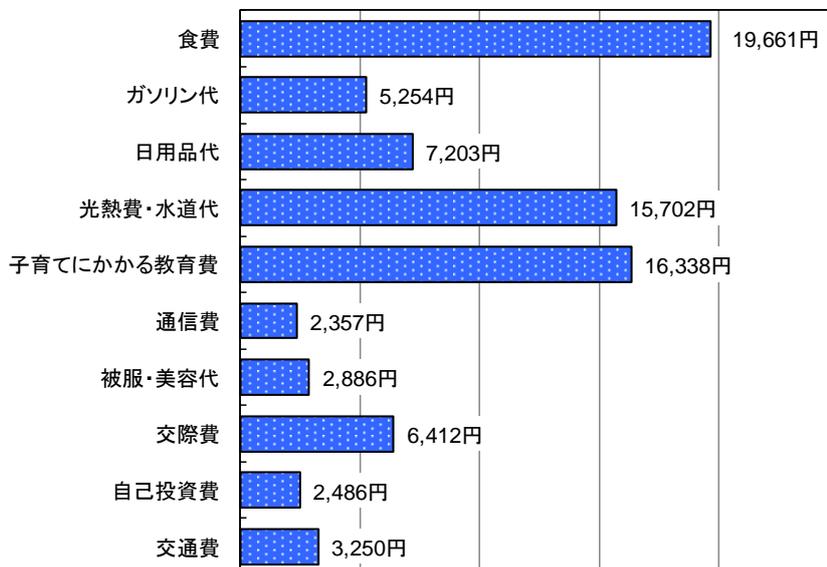
○また、「子育てにかかる教育費」も16,338円増加しており、子育て世帯にとって、大きな負担となっているようです。

**Q. 昨年同時期と比較して、支出に増減はありますか**



**Q. 項目別の支出増加額について教えてください**

（「昨年同時期より支出が増えた」人のみ回答）



## ～フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



9割以上の方が、昨年よりも物価高の影響を感じるという結果になったのは当然でしょう。実際、食品価格は、食用油や小麦粉をはじめ、多くの品目で高い伸びが続いています。ここへきて、ラップやティッシュペーパーなどの日用品、冷蔵庫などの電化製品の価格上昇も目立つようになってきています。

食品メーカーの多くは、いまだ原燃料費上昇分の製品価格への転嫁が十分に進んでおらず、インスタント食品や菓子類など、5月以降も多くの値上げが予定されています。一方、2月以降は、政府の電気・ガス代の負担軽減策が、関連品目の価格を大きく押し下げています。元々の物価高の主因である穀物価格や原油価格は一時より落ち着いているほか、円安ドル高基調も一巡しており、2023年後半以降、値上げトレンドがピークアウトする可能性も出てきています。あと少しの辛抱かもしれません。

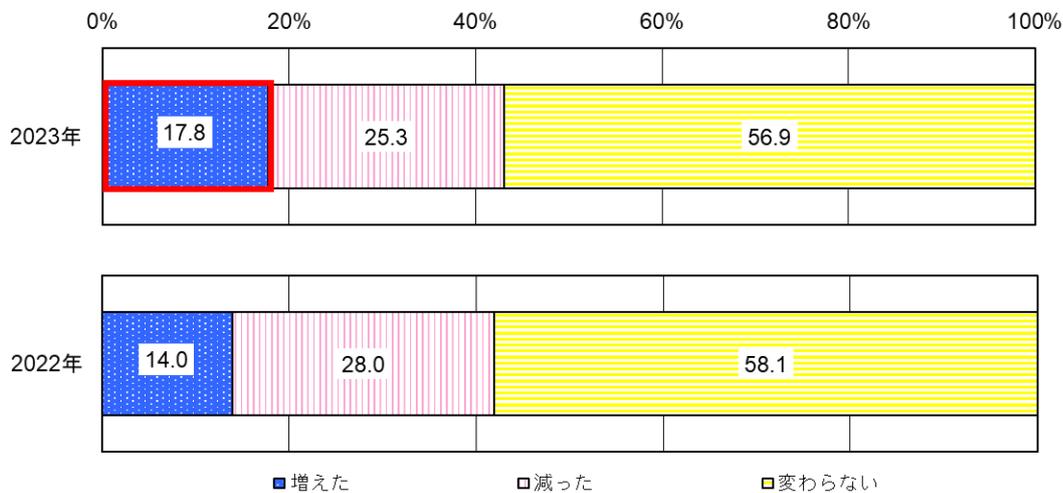
## 2. 収入について

**昨年より多くの世帯が収入増！賃上げ機運の高まりに期待！**

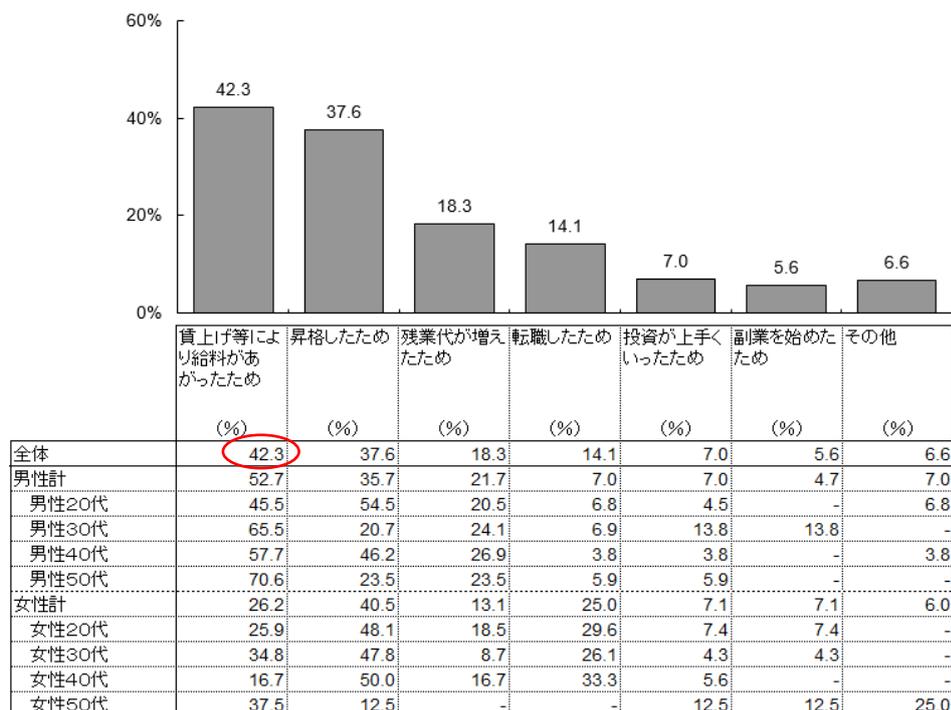
○20～50代の人に昨年同時期と比較した収入の増減を聞いたところ、17.8%の世帯が「増えた」と回答し、昨年（14.0%）から3.8ptの増加となりました。

○収入が増えた理由を聞いたところ、トップは「賃上げ等により給料が上がったため」（42.3%）と、約半数が賃上げによる収入増加を実感している結果となりました。今年の春闘では例年以上に賃上げ気運が高まっており、今後も増加傾向が続くか注目です。

Q. 昨年同時期と比較して、収入に増減はありますか（20～50代のみ回答）



Q. 昨年同時期と比較して、世帯年収が「増えた」と回答した理由を教えてください（「昨年同時期より支出が増えた」人かつ20～50代のみ回答）



## 約6割のパート・アルバイトが「年収の壁」で働きたいのに働けない！

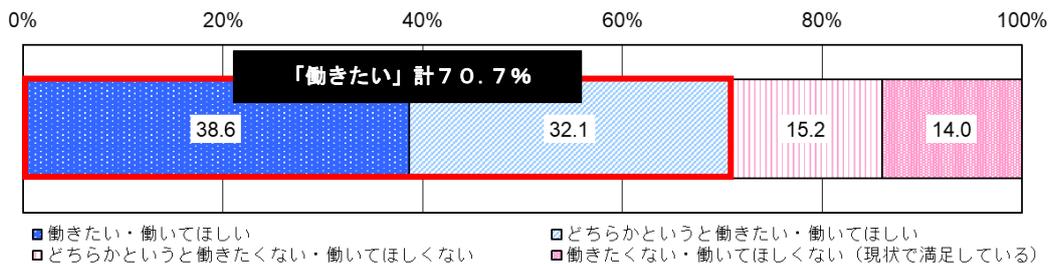
○パート・アルバイト（自身もしくは配偶者）の人に、今よりもっと働きたい（または配偶者に働いてほしい（以下、「働きたい」）か聞いたところ、「働きたい」と回答した人は38.6%、「どちらかというとも働きたい」と回答した人は32.1%と、合わせて約7割が今よりもっと働きたいという結果となりました。物価高の影響も相まって、収入を増やしたいという意欲が上昇しているのかもしれませんが。

○今よりもっと働きたいと考えている人に、希望どおり働けない理由は「年収の壁」<sup>(※)</sup>が影響しているか聞いたところ、約6割（58.4%）が影響していると回答しました。「年収の壁」が、働きたい・収入を増やしたいという意欲の壁になっているのかもしれませんが。

(※)一定の所得を超えると税金や社会保険料が発生して、手取りが減る仕組み

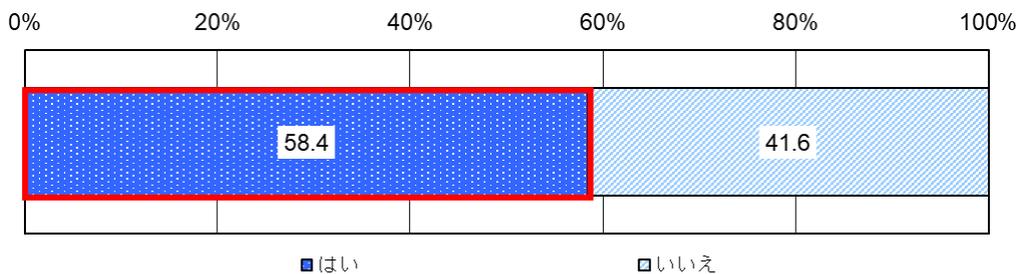
### Q. 今よりもっと働きたい（働いてほしい）ですか

（「自身もしくは配偶者がパート・アルバイト勤務」の人のみ回答）



### Q. 希望どおりに働けない理由は「年収の壁」が影響していますか

（「今よりもっと働きたい（働いてほしい）」人のみ回答）



## ～フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

### ■明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



収入が増えたと回答する人が増加傾向にあるのはいいニュースです。事実、2023年春闘の第4回回答集計結果（4／13公表）における、定期昇給相当分を含む賃上げ率は3.69%と、前年同時期の2.11%から大きくジャンプアップしています。約30年ぶりの高い賃上げ率になりますが、こうした流れを持続させ、賃上げを起点とした経済の好循環の実現をめざしたいところです。

一方、ただでさえ人手不足が叫ばれるなか、「年収の壁」が理由で自ら労働時間を抑える人々がいるのは深刻な問題です。男女が同条件で働ける環境を整えるのは、少子化対策の重要な要素のひとつでもあり、早急な改正が望まれます。

### 3. 貯蓄とおこづかいについて

#### (1) 貯蓄について

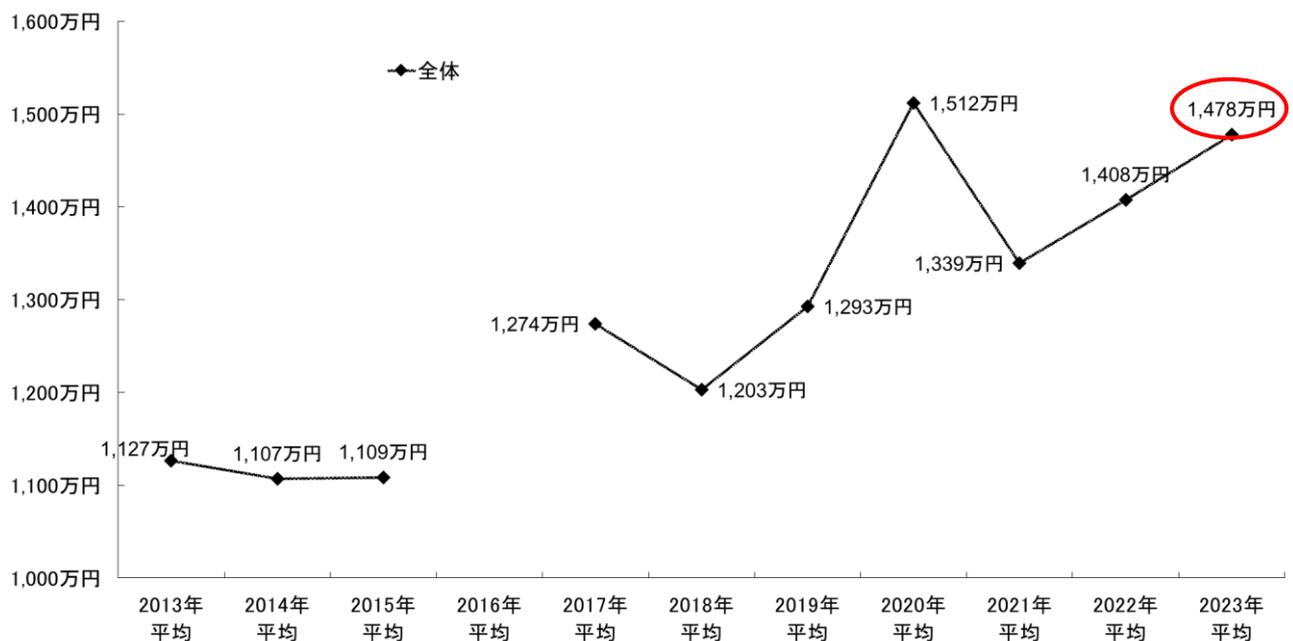
**貯蓄額は2年連続増加！貯蓄目的のトップは「老後のため」！**

○世帯での貯蓄額について聞いたところ、貯蓄額の平均は1,478万円となり、2年連続で増加しました（2022年は平均1,408万円、2021年は平均1,339万円）。新型コロナウイルス感染症の影響をうけ、支出以上に所得が減少したことなどにより貯蓄額が減少した2021年以降、貯蓄額が増加傾向にあります。

○貯蓄目的について聞いたところ、トップは「老後のため」（62.8%）、次いで「いざという時のため」（56.6%）と、先行き不透明な時代において、不安を感じている様子が垣間見える結果となりました。男女ともに、50代以上の年代でより老後を強く意識する様子も見られました。

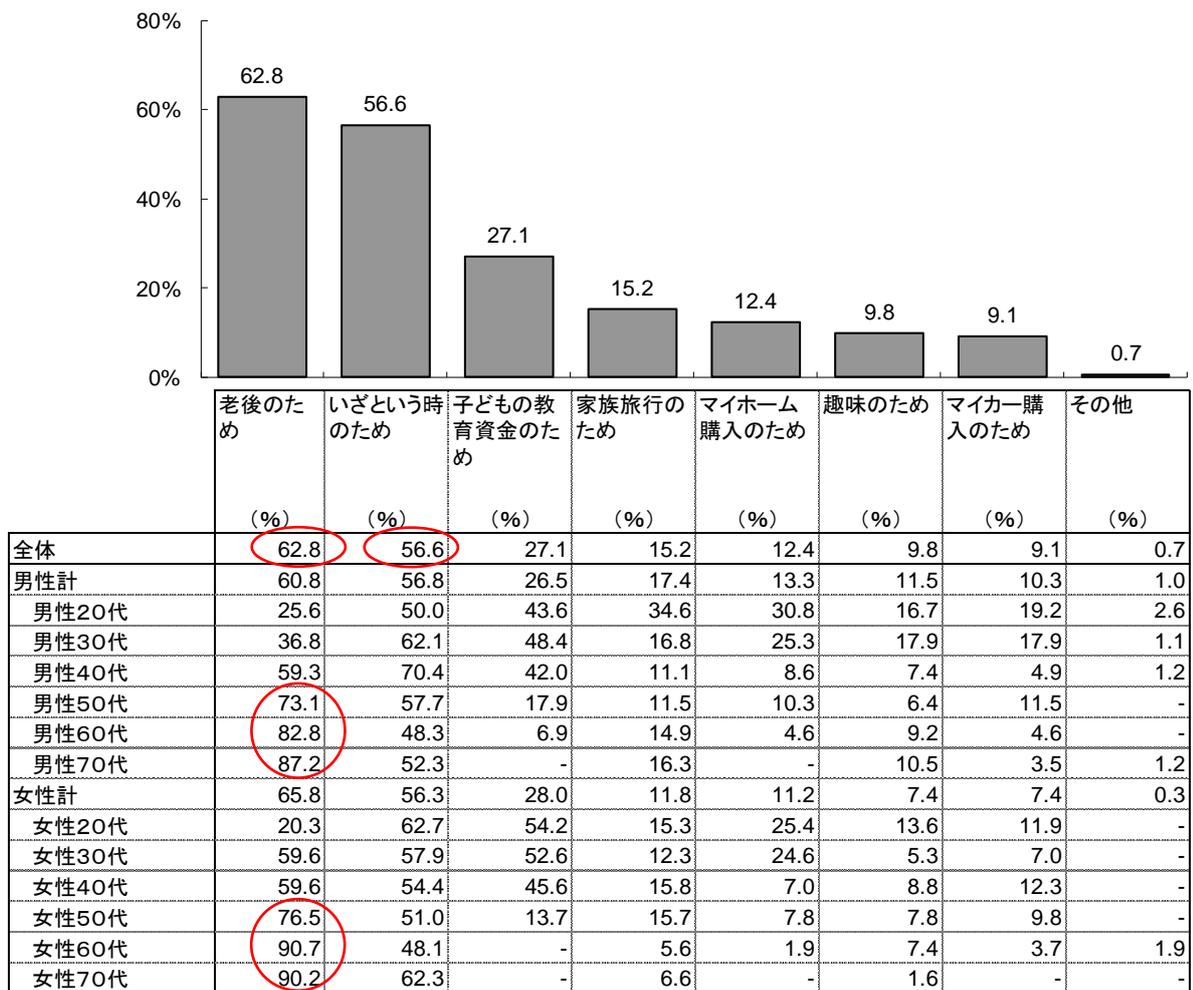
○世帯ごとの貯蓄割合を平均すると、「銀行預金」が約7割（74.3%）と圧倒的に多く、「投資」は約2割（19.2%）に留まる結果となりました。投資へのハードルは依然として高く、「投資」へシフトしていくことの難しさがうかがえます。

#### Q. 世帯での貯蓄額を教えてください

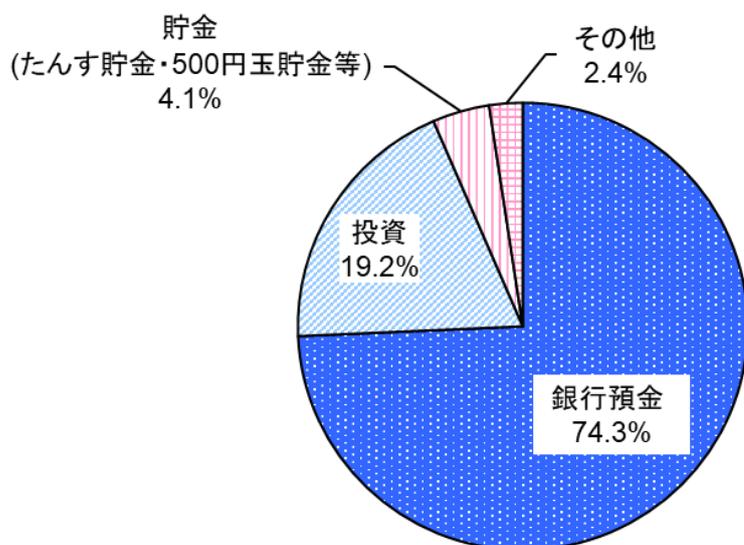


※2015年以前は「いい夫婦の日」に関するアンケート調査、2016年は調査なし

Q. 貯蓄目的を教えてください（複数回答）



Q. 貯蓄の割合を教えてください



(※世帯ごとの貯蓄割合を平均して算出)

## 約 8 割が老後に不安あり！

○ 20～50代の人に老後の生活に経済的な不安を感じるか聞いたところ、「不安を感じる」と回答した人は約8割（81.6%）となりました。年代別に見ると、特に30代以上の女性の9割近くが、老後の生活に経済的な不安を感じているようです。

○ 「不安を感じる」と回答した人に理由を聞くと、トップが「十分な金融資産がない」（61.7%）、次いで「物価高が続くと思うから」（53.9%）となりました。前述のとおり、老後のために貯蓄を増やす傾向がある一方、現状では十分でないと感じる人も多く、今後も貯蓄が増加傾向となるかもしれません。また、物価高が老後の不安にも影響を与えているようです。

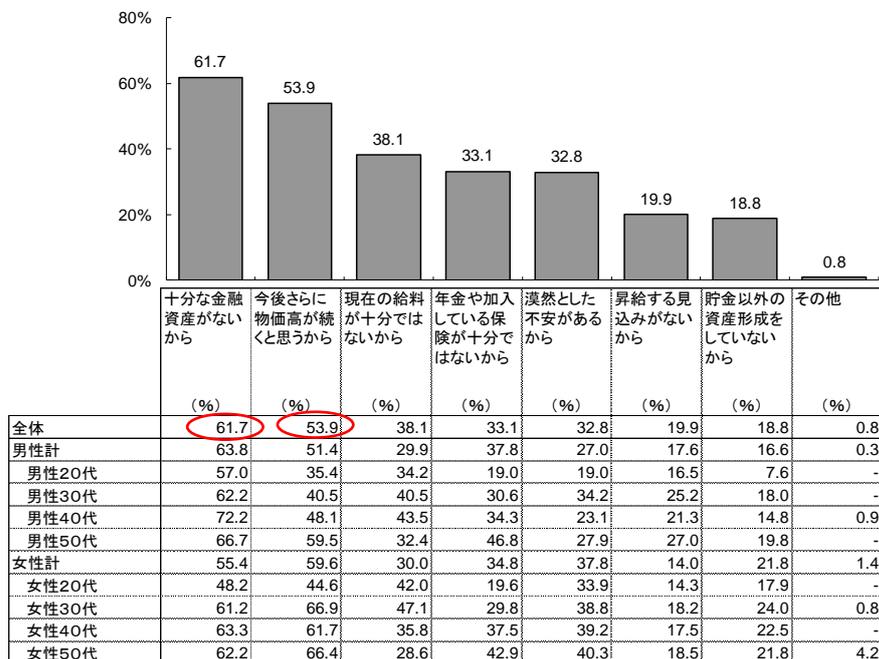
### Q. 老後の生活に経済的な不安を感じますか

（20～50代の人のみ回答）

	不安を感じる (%)	不安は感じない (%)
全体	81.6	18.4
男性計	76.4	23.6
男性20代	58.5	41.5
男性30代	82.2	17.8
男性40代	80.0	20.0
男性50代	82.2	17.8
女性計	82.0	18.0
女性20代	83.0	17.0
女性30代	89.6	10.4
女性40代	88.9	11.1
女性50代	88.1	11.9

### Q. 不安を感じる理由を教えてください（複数回答）

（「不安を感じる」人のみ回答）



(2) おこづかいについて

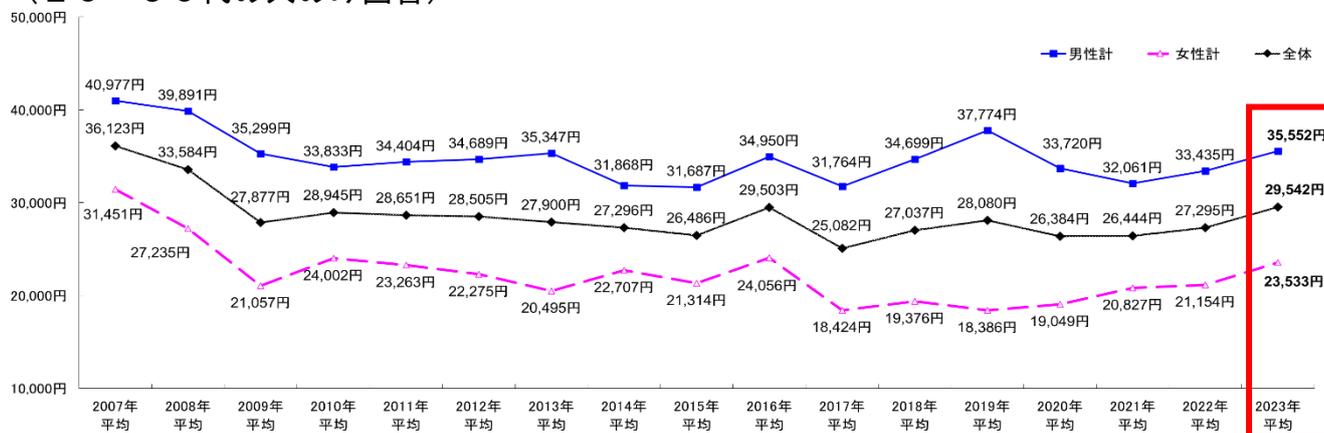
**夫のおこづかい2年連続増加！コロナ禍前には届かないものの大幅アップ！**

○20～50代の人に夫婦のおこづかいの金額（ひと月あたりの平均額）について聞いたところ、夫・妻ともに昨年よりもアップしました。特に、妻のおこづかいがコロナ禍前の2019年水準（18,386円）に回復しています。

○夫のおこづかいは昨年から2,117円アップの35,552円となり、2年連続で増加しました（2022年は33,435円、2021年は32,061円）。コロナ禍前の水準にはまだ届いていませんが、物価高により日々のランチや飲み会などの外食に係る費用が増加するなか、妻の優しさが表れたのかもしれません。

**Q. おこづかいの金額について教えてください**

（20～50代の人のみ回答）



**～フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～**

■明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



世帯貯蓄額は2年連続の増加となりました。おこづかいは3年連続の増加で、男女合計ではコロナ禍前の水準を回復しました。

貯蓄が増える要因として、収入が上がる場合と将来の不安が増す場合がありますが、今年に関しては、前者の前向きな貯蓄増という性格が強いのではないのでしょうか。

ただ、その4分の3が、ほぼゼロ金利の銀行預金に固定されているのは、欧米の人から見れば驚くべきことかもしれません。物価高を考慮すれば、家計の金融資産は少しずつ目減りしているとも言えます。日本人のマインドに「投資は難しいもの、危ないもの」という意識が深く根付いていることが一因と考えられます。時間はかかるかもしれませんが、学校における金融教育強化の成果が少しずつ現れるのを待ちたいところです。

#### 4. GWについて

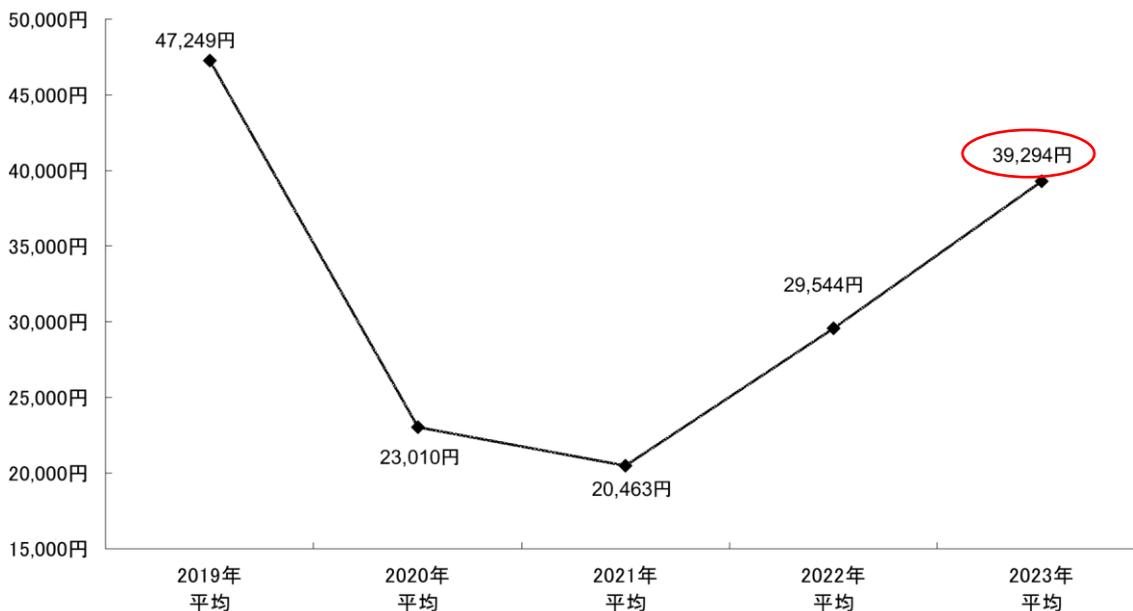
**本格的な“脱巣ごもりGW”！GW予算は昨年から約1万円アップ！**

- 今年のGWの過ごし方について聞いたところ、「自宅で過ごす」（41.6%）がトップであるものの、昨年と比較して14.4pt減少するなど、外出が増加した傾向がみられました。2位「国内旅行」（13.7%）、3位「帰省」（7.9%）と続きます。2023年3月13日からはマスク着用ルールが見直されるなど、Withコロナに向けて社会が変化し、今後さらなる人出が期待され、コロナ禍以降で最も外出が活発化する様子がみとれる結果となりました。
- また、「国内旅行」と回答した人の割合は、コロナ禍において初めて緊急事態宣言が発出された2020年（3.7%）と比較して約4倍の結果となりました。「海外旅行」についても増加傾向となっており、今後の旅行需要に期待ができそうです。
- GWの予算について聞いたところ、39,294円と昨年から約1万円（9,750円）増加しています。コロナ禍前の2019年水準（47,249円）に及ばないものの、外出が活発化することに合わせて、予算も増加していると言えます。
- 一方で、物価高がGWに与える影響を聞くと、「目的地を近場に変更する」（24.7%）や「宿泊先のグレードを下げる」（18.1%）などの予定変更や、「予算を上げざるを得ない」（13.9%）など、物価高がGWの過ごし方や予算にも影響を与えていることがわかります。外出が活発化しているものの、物価高をうけてちょっぴり我慢を強いられているのかもしれません。

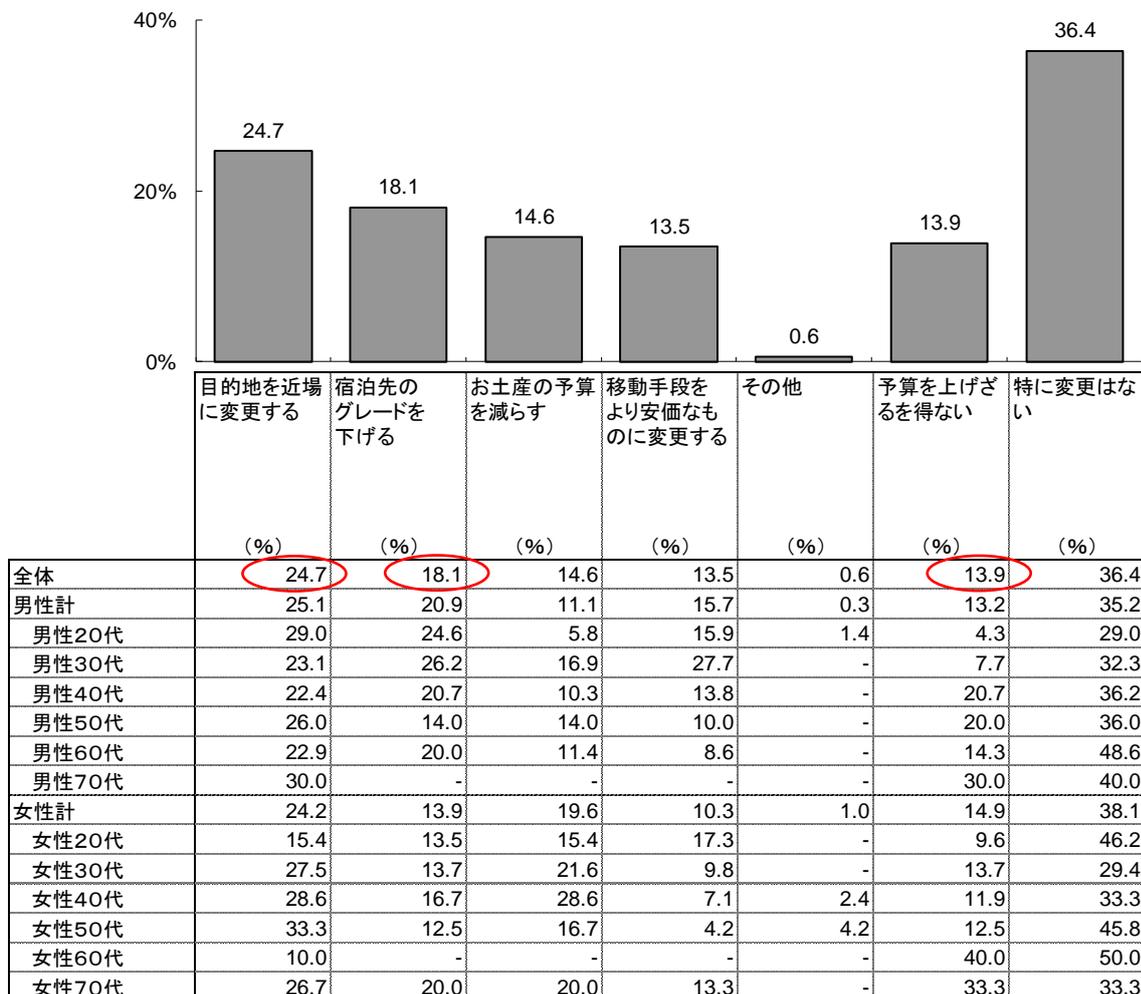
#### Q. 今年のGWはどのように過ごしますか

	自宅で過ごす	国内旅行	帰省	アウトドア	遊園地・テーマパーク	海外旅行	スポーツ観戦	ボランティア	その他	未定
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
2023年	41.6	13.7	7.9	3.0	2.4	1.2	1.2	0.2	2.5	26.2
2022年	56.0	11.2	5.6	2.9	0.3	0.5	0.9	0.2	0.7	19.2
2021年	64.1	4.9	4.6	2.3	1.0	0.4	0.4	0.1	2.0	20.1
2020年	66.3	3.7	3.0	1.7	0.7	0.5	0.2	0.1	2.3	21.4

Q. 今年のGWにいくら使う予定ですか



Q. 物価高は今年のGWにどのような影響を与えますか (複数回答)



## ～フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

### ■明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



GWの過ごし方で、「自宅で過ごす」とした人が昨年の56.0%から41.6%へと大きく減少するなど、人々の外出意欲の高まりを示す結果になりました。行先は、国内旅行のほか、遊園地・テーマパークとした人が増えています。GW明けの5月8日から、コロナの感染症法上での分類が「5類」に引き下げられることが、一種の安心感に繋がっているほか、全国旅行支援の継続なども追い風になっていると思われます。また、今年のGWは去年に続き長期休暇が取りやすい日並びとなっており、ほぼゼロだった海外旅行も少しずつ増え始めています。

予算も昨年度から1.3倍に拡大、2年前との比較では2倍近く増えました。コロナ禍前の水準にはまだ及びませんが、本格的な「脱巣ごもりGW」になりそうです。国内客だけではなく、4年ぶりにクイーン・エリザベスが日本に立ち寄るなど、豪華クルーズ船の運行も再開しており、インバウンドの回復も顕著です。

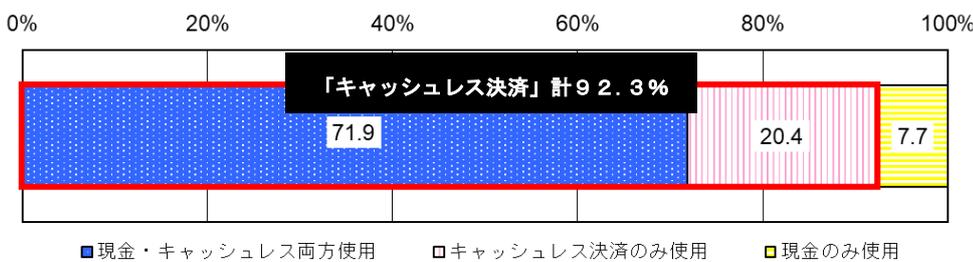
ネックはやはり物価高で、特にホテル価格や航空券価格は需要の回復を反映する形で急騰しています。昨年来の円安の進行で、海外旅行のツアー代金も跳ね上がっており、脱「安・近・短」とはなかなかいかないかもしれません。

## 5. キャッシュレス決済について

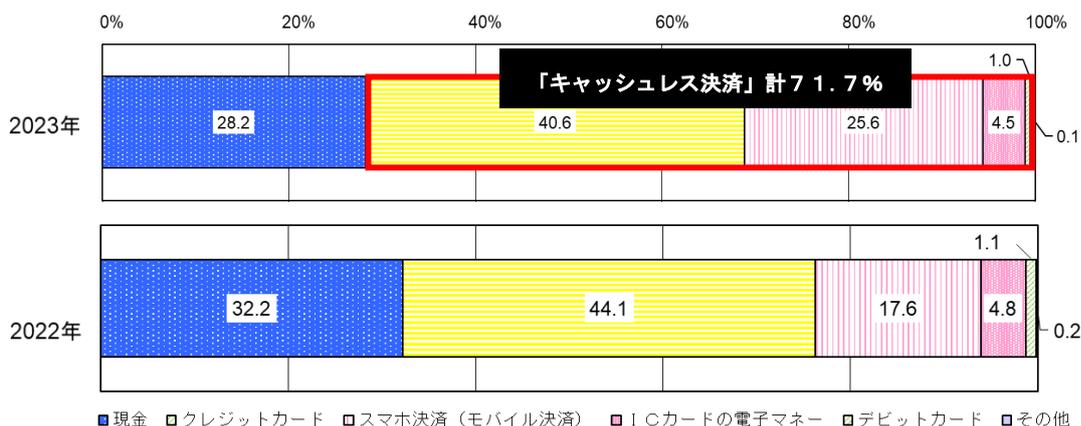
### 約9割がキャッシュレス決済を利用！マイナポイントも後押しに？

- 普段利用する決済手段について聞いたところ、「現金・キャッシュレス両方使用」と回答した人が71.9%、「キャッシュレス決済のみ」と回答した人が20.4%と、キャッシュレス決済を利用する人が約9割（92.3%）にのぼり、広く普及していることがわかる結果となりました。
- 最も多く利用する決済手段について聞いたところ、「クレジットカード」（40.6%）がトップで、次いで「現金」（28.2%）、「スマホ決済」（25.6%）となり、スマホ決済が現金に迫る結果となりました。キャッシュレス決済を合わせると約7割（71.7%）で昨年（67.6%）から4.1pt上昇しました。
- キャッシュレス決済を利用する目的について聞いたところ、トップが「ポイントが付く等、経済的メリットがあるため」（68.0%）、次いで「現金を持ち歩く必要がなく、利便性が高いため」（60.4%）となりました。お得感や便利さが、利用を後押ししていることがうかがえます。
- マイナポイントの付与をきっかけに利用し始めたキャッシュレス決済手段は何か聞いたところ、約2割（20.2%）が「スマホ決済」を利用し始めたと回答しました。年代別に見ると、20代が最も多く、男性で29.7%、女性で29.1%となりました。

#### Q. 普段利用する決済手段について教えてください

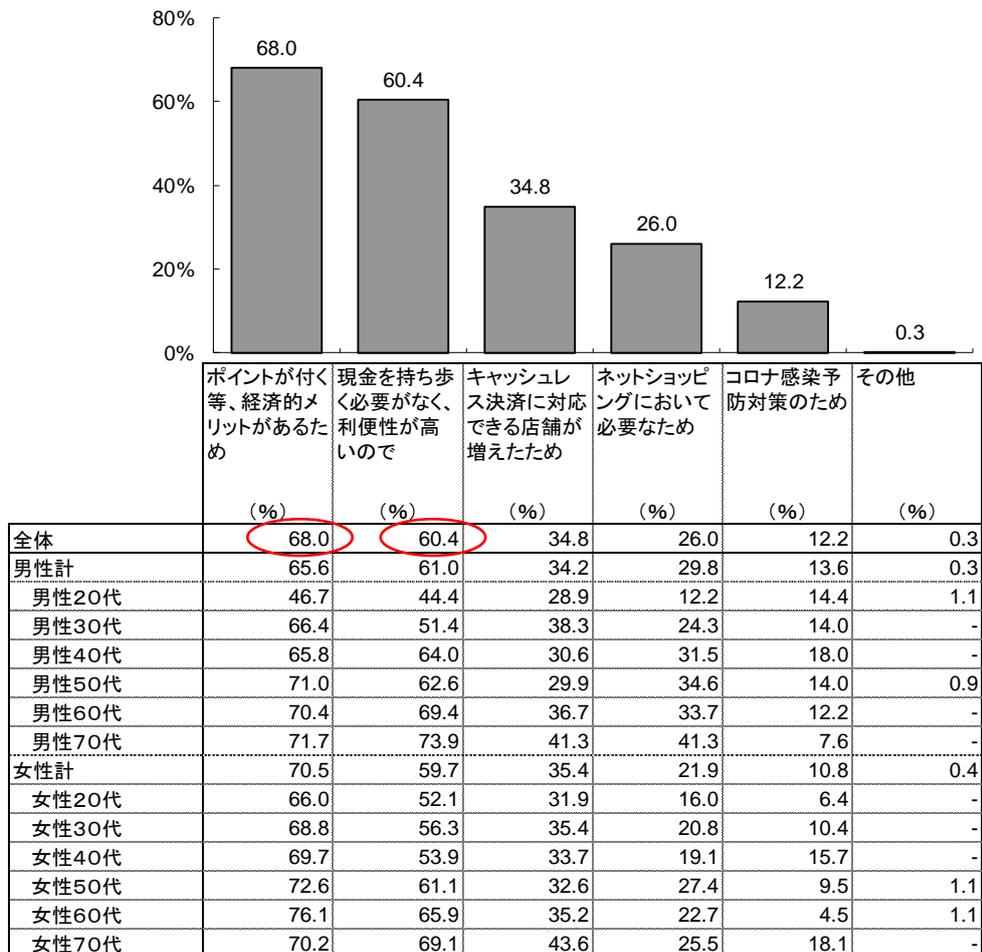


#### Q. 最も多く利用する決済手段について教えてください



Q. キャッシュレス決済を利用する理由を教えてください（複数回答）

（キャッシュレス決済を利用する人のみ回答）



Q. マイナポイントの付与をきっかけに使用を始めた決済手段を教えてください

	スマホ決済（モバイル決済） (%)	クレジットカード (%)	ICカードの電子マネー (%)	デビットカード (%)	利用し始めた決済手段はない (%)
全体	20.2	11.4	1.6	0.4	66.4
男性計	21.3	14.0	2.0	0.3	62.4
男性20代	29.7	24.3	1.8	-	44.1
男性30代	23.6	17.3	1.6	-	57.5
男性40代	29.2	15.4	3.1	0.8	51.5
男性50代	20.2	11.6	1.6	-	66.7
男性60代	16.2	9.2	0.8	0.8	73.1
男性70代	9.8	7.3	3.3	-	79.7
女性計	19.0	8.7	1.2	0.5	70.5
女性20代	29.1	10.3	-	0.9	59.8
女性30代	28.1	8.6	0.8	-	62.5
女性40代	21.7	11.6	2.3	0.8	63.6
女性50代	12.0	8.8	3.2	0.8	75.2
女性60代	14.3	4.8	-	0.8	80.2
女性70代	8.5	8.5	0.8	-	82.2

## ～フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

### ■明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



日本人の「現金信仰」はいまだに根強いものがありますが、民間決済のキャッシュレス化は今後も着実に進行していくと考えられます。〇〇ペイといった決済事業者が乱立するなど、不便な点もありますが、各社が競うポイント還元サービスは、賢く使えば家計の大きな味方になりえます。

販売側もデータを有効活用したマーケティングが容易になるほか、現金決済のインフラコスト削減や、人手不足の解決も可能になります。キャッシュレス決済を好む海外旅行客の消費拡大も期待できるほか、デジタル分野での新産業の創出が増えていくことが、持続的な経済成長にも繋がります。

デジタル経済は政府の成長戦略の柱でもあり、マイナンバーは、「デジタル社会のパスポート」と位置付けられています。第2弾まで実施済みの大変お得なマイナポイント付与サービスは、今後も継続が予想されるので、物価高対策のためにも、ぜひうまく活用してほしいと思います。